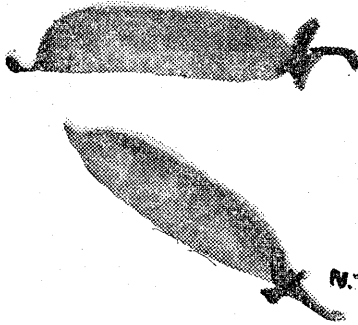


# 保育所の眞の姿

副島ハマ



「先日〇〇町に行つたのですが、小さい町に似合わない立派な建物があるので、病院かと思つたら、これが何と、保育所でしたよ。この頃保育所も大したものですよ」

或有力な指導者にこういう言葉を聞かされて、私は驚いてこの人の顔を見直した。この方は保育所の何をさして「大した」と仰言るのでしよう。建物？ 建物の立派も結構——。勿論私は子供たちの家の軒が傾いているから保育所は粗末でよいとか、四畳半一間に六人が寝起きしているから家庭の子供だから保育室の広さは〇、三三坪でよいとか、家庭でも母親が録に見てやれないのだから保母先生の受持児童数は多くてもよいなどとは思わない。家の環境が粗末であればある程、保育所の設備は豊かでありたい。そうしてこそ「すべて児童は、ひとしくその生活を保障され、愛護されなければならぬ」という児童福祉法の言葉が完うせられ、「家庭に恵まれない児童には、これにかわる環境が与えられる」の児童憲章が成就されるのであるから——。

しがし私は、病院と間違えられる保育所の建物に対する「大したものですよ」の誉め(?)言葉には、いささかピンボケの悲哀を感じるし、そういう大きな建物が建つことの根本に、町の上層部の方々の保育所に対する認識のピンボケを感じて残念に思わないではおられない。

ここで、私はこの人に対してピンボケの抗議を書きたいのであるが、それよりも保育所の眞の姿を、一部の家庭からのぞくことにしよう。

以下は〇〇県の保育所監査に行つて、〇〇町保育所児童の家庭訪問をした時のことである。

第一に訪問した家庭は引揚者のために建てられたバラックの長屋。「〇〇ちゃんのお母さんは？」案内の保母先生の質問に隣のおばあさんが「今日は〇〇で刈り入れの手伝いです。遠いから昼も帰らないのでしょう」の返事、私はそのお母さんに直接会えなかつたけれど、子供二人を保育所に預けて安心して仕事に精出してゐる母親の姿を心の目に写しながら「お母さん頑張つて頂戴！ あなたの息子さんは保母先生の手でしっかりと抱かれ守られていますよ」と、声なき応援を送つたのであった。

第二に思い出す家庭は、狭い露路まで漬物、豆腐などの槽を掘げている八百屋さんである。私が「お子さんが保育所に行つてゐるんですつてね」と声をかけると、前かけ姿のお母さんは眼をパチクリして案内の保母先生を見ながら、「えー、もー、保育園のおかげさまで——。えー、もー、先生のおかげさまで、安心して商売が出来ます」……。

ほこりっぽい道を行くと間もなく町はずれになつて、私たちは第三の家庭を訪問した。納屋を改造した家、入口を開けると玄関と台所兼用の土間で、七輪とそだ、鍋、釜などが雑然とおかれてある。窓は一尺四寸のが、家中にただ一つ壁板を切つてガラス一枚貼りつけてあるだけ。押入れがなく、少い蒲団や衣類がつみ立てであつて床の高さは一尺もない位で、畳らしいものがはじめにしていた。母親は働きに出かけて、勿論留守、もし保育所がなければこの家の子

供は、この暗い部屋で一人で何をして遊ぶだろう？　そして遊びながらどんなことを考えるか知ら？……。

第四の家庭は、引揚者寮の一室、昼なのに廊下には電燈がついてゐる。といつても眼が慣れるまでは何も見えない位の暗さである。「ここの子供はこの頃保育所を休んでいるので、丁度今日は訪問しようと思つていた所です」保母先生の言葉にうなづきながら、ドア（といつても、ガタビシの雨戸）を開けると、六畳と三畳の板の間二つ、部屋はガランと広いが、畳は六畳の方に二枚だけ、その上に薄い蒲団が敷いてあつて母親がねている。「先生、子供たちを休ませて済みません。私がどうにも起き上げれないものですから、〇〇（五才の男児）に御飯煮いて貰つたり、水汲んでもらつたりしています。下の子（二才）は一人で行けないものですから——」母親の顔色も悪いが、側にしょんぼりと足を抱えこんで座つてゐる〇〇ちゃんの顔も冴えない。台所道具は七輪と釜と茶碗類だけ、あと何も——ほんとに何も無い。あの男の子供がこれだけの炊事道具でままごとならぬ御飯煮きを一人でするのかしら？……。私は目頭がじーんと熱くなつてきた。

「お母さん、元気出すんですよ。あなたには可愛いお子さんがついていますから——」私は漸くこれだけ云つて廊下に出た。と聞もなく「先生」と可愛い声がして保母先生の足にまつわりつた子供がゐる。下の子供である「何してたの？」「何にも——」。早く保育園にいらつしやいね」「うん」……。

私はのどがまつて言葉が出なかつたが、道に出て五分位も歩い

てから、保母先生に「押入れも行李もお蒲団もなかったようですが夜はどうしてねるんでしょうか」と聞いた。「皆があので餅餅ごんにもぐり込むのでしょうよ」……。素人の私が一目で結核と診断したことが間違いないければ、あの子供たちは既に感染しているのではないだろうか……。

あの二人の子供は「何してるの?」「何にも」実に何にも、実に何もしてなかった。普通の家庭の子供なら時間と場所と材料が足りない位熱心に遊ぶのに、おもちゃらしいものも、場所も、指導者も、そして気力もない子供がいる……。そして誘いかけがなければ、保育所も知らないでいる母親や子供が、あるかも知れない。

第五、第六、第七……書けば無限にこういう事例がある。しかしもう書くことはやめよう。保育所の所長先生と、保母先生方——地域社会の母である保母先生方はよく御存じであるから。

私はこの頃保育所の表面に見える保育活動だけを見て、色々な批評を加える方々や、又冒頭に書いたような、建物で保育所の価値判断をなさる方々に対して、無言の抗議をした。気持ちになって、しみじみと涙をかみしめることがある。

保育所の存在価値は、表面に見える保育活動ではない。まして建物そのものではないのである。日本中の保育に欠ける子供たちの誰もが保育所に入られて、みなが幸福になることです。保育に欠ける子供たちは感謝の言葉——例えば「生れてから今まで愛情欠如のため、ひがみをもっていったのが、先生に愛せられて初めて人生の喜びを

知り、円満な性格に変わりました」「今までの不規則な家庭生活からルーズになっていた性格がなおりました」「栄養不足のため弱かった私が、先生方の一番苦勞なさる給食で、こんなに丈夫になりました」「今まで友だちにのけものにされていたので卑下感をもっていったのが、この頃対等に誰とも遊べるようになりました」「おもちゃも指導もない家庭の中で、新しい知識や経験への欲の芽が枯れていたのがお蔭で芽をふきかえました。有難うございます」等、等、等、子供自身に認識する力も発言能力もないので、発言しないけれど、もし表現力が充分なら、山程の感謝の言葉が聞かれることだろう。子供たちは何も云えないけれど、保母先生方にとって、子供たちの凡てのすばらしい成長ぶりは、百万言の感謝の辞よりも、慰めであり喜びである。

お母さん方でもそうである。時々お母さんの中に「生活保護を貰えるだけ貰って、じっとしている方が身体も楽でよいと思っていたのに、ケースワーカーや、保母先生方にすすめられ、子供を保育所に預けたばかりに、自分も外に出て働かなければならないことになって——」とか「先生方はうちのような家があればこそ、食べて行けるでしょう。先生方の勤めだから親切にするのが当たり前でしょう」という方があって、長い間社会の下積になっていたお母さん方なのだからと同情しつつも、散々苦勞なさることもあるだろう。そういうお母さん方の更生した姿! 協力的な態度は、又保母生活の最上の慰めであり、励ましになるものである。

「村の係員が、先日保育者所に来て、あなたの保育所は幼稚園化していただけますね」と云われるので、*「どうしてですか」と聞く*と、*幼稚園と国じ歌を歌っているじゃありませんか」と云われるので*、*どうすればよいのでしょうか」と聞く*と、*唯遊ばせておけばよいのです*。家では遊んでいるじゃありませんか」と云われました。一体どうなればよいのでしょうか」

これは三年程前に受けた質問で、この頃は時代が進んで係員の人々が第三者的立場の人からこういう質問を出されているとのことである。

同じ幼児時代である。環境の差を、一応選択する時の条件に入れるとしても、大体同じ題材の歌やお話が幼児を対象とした保育の場やラジオの番組で行われることは余りにも当然である。

保育所の真の姿はそうした保育の表面に見える保育活動でなく、保育所の目的である「保育に欠ける子供を幸福にすること」であり、そこに保母先生方一番の御苦労があるのである。

そしてその保育所の真の姿を見ていただいた上で、も一度、児童福祉施設最低基準の中の保育所の保育内容を見直していただきたい。その中に、健康状態の観察、個別検査、健康診断などの健康保育、生活指導が含まれ、自由遊びの中に音楽、リズム、絵画製作、お話、自然観察、集団遊びなどという保育活動が含まれているのは幼児の自然の遊びと幼児の成長段階にそうした活動が含まれて居りそれを行うことが幼児の円満な成長発達に必要なことであるからである。そしてこれは家庭にいる子供も、集団で保育される施設の子

供達も変りなく、どの子供たちにとっても適当な指導が望ましいことなのである。そしてこれは決して保育所特有のものでもなければ幼稚園特有のものでもありません。(勿論指導する方法については甲駈乙論、未だ研究の余地があるだろうけれど——)

私の家に居る親戚の子供A子(満五才) B太郎(満四才)の遊びを見ていて、私はそう思うのであるが、幼稚園に行かないでも製作を楽しみ、遊戯や学芸会を一度も見ることがなくても、お遊戯の創作をして遊び、劇遊び(家中を舞台にして家族を総動員して劇に入れる)をして遊んでいる。これこそ子供のありのままの姿であろう。

この姿が法令の中の保育所の保育活動の中にあるのであって、こういう活動をしながら、その子供たちの家庭の保育に欠ける状態からゆがめられた子供の姿、愛せられ、育った子供の姿にすることにこそ保育所の苦心があるのである。

建物の立派さ、保育内容の高度な研究も共々に必要なことであるが、それと共に保母先生方の御苦心は、母として子供を愛し、子供を幸福にしてやるといふ平凡で実にむづかしい仕事に取組んで居られるわけである。

(全国の保母先生方の御苦労をしのび御目愛を祈りつて)

(厚生省母子福祉課)